

アルミ缶の タブだけを切り取って 集めるのはやめましょう!

タブを
つけたままで!

アルミ缶の
リサイクルは



タブを切り取るのは指を傷つけるなどして危険です。

アルミ缶のタブは、タブが口金とともに切り取れることで環境問題の原因になったことから、現在ではタブが外れないステーションタブ式になっています。一部で、タブだけを集めて車を贈ろうという活動がありますが、アルミ缶リサイクル協会では思いがけないケガや事故を防ぐためにも、タブだけを切り取って集めるのではなく、缶ごとの回収をお願いしています。



アルミ缶リサイクル協会

有効で安全なアルミ缶のリサイクル活動にご協力ください。



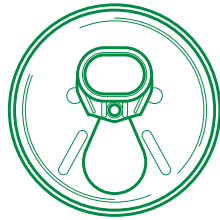
タブの移り変わり

以前は「タブ」と「口金」を缶から切り離すタイプでしたが、現在はタブや口金が缶から取れないようにしたステイオンタブ式に改良されています。

旧式

プルタブ式

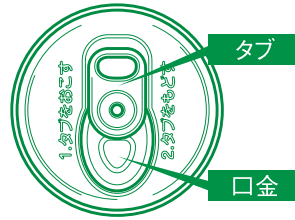
タブを切り離すタイプ。
1990年以降ほとんど製造されていません。



現在

ステイオンタブ式

タブを切り離さないタイプ。
1990年から採用されています。



アルミ缶とタブの重量

標準的なアルミ缶 (350cc) の重量は、タブの0.4gに対して、缶全体では15.8gと約40倍もあります。

重量の違いから考えても、タブを切り離して集めるよりも缶を丸ごとリサイクルした方が安全で効率的です。



キャップがついている「アルミ・ボトル缶」は、リサイクル時の安全面・衛生面への配慮から、キャップを外して、水洗いしたボトル缶といっしょに回収することをお願いします。



アルミ缶のリサイクル率100%をめざしています。



アルミ缶リサイクル協会

〒104 東京都中央区銀座4-2-15 塚本素山ビル6階
-0061 ☎03-6228-7764(代表) FAX.03-6228-7769
<http://www.alumi-can.or.jp>

